

耳の不自由な人のこと(聴覚障がい)を知ろう

「聞くこと」についての障がいです。

聴覚に障がいのある人には、生まれたときから、まったくきこえない人、きこえにくい人と、生まれた後に何らかの原因によって聴力を失った(失聴)人、きこえにくくなった(難聴)人など、障がいの程度や状態は様々であり、必要とされる配慮も違います。

こんなことに困っています…



● 声をかけられたり、車のクラクションを鳴らされても聞こえず、危険な目にあうことがあります。

● 手話を使っている人の中には、日本語の読み書きや、音声で話すことが苦手な人もいます。

また、声に出して話せる人もいますが、相手の話は聞こえていない場合もあります。



● 補聴器をつけている人もいますが、補聴器で音を大きくしても、はっきり聞こえているとは限らず、相手の口の形を読み取るなど、視覚による情報で内容を補っている人もたくさんいます。

わたしたちができることは？

◆ 外見では分かりにくい
聴覚障がいは外見では分かりにくい障がいのため、周囲に気付いてもらえないことがあります。



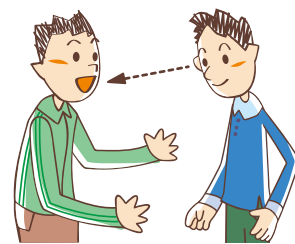
「あいさつしたのに無視された」など、誤解されることもあります。

◆ 街の中では
緊急時や災害時もアナウンスなどの音声情報には気付くことができません。



聴覚障がいのある人だと分かった場合には、文字での表示やイラスト、手話など、見て分かる方法で伝えましょう。

◆ 会話するときには
会話をする準備が必要です。
急に話し始めず、注意を向けてから話しましょう。



口もとの形や表情は、言葉を理解するために大切な情報です。気持ちが伝わるように、できるだけ目を合わせて話しましょう。

◆ 聞き取りにくいときは
聞き返したり、紙に書いてもらい内容を確認しましょう。

